

芝東中だより

笑顔と規律と絆のある文武両道の学校

中芝東 KIND

川口市立芝東中学校

〒333-0867 川口市芝東町3-1

TEL265-3317(職員室)

TEL265-3492(相談室直通)

<http://www.kawaguchi.saitama.jp/shibahigashi.jp/>

NO.3 発行日 令和6年6月1日

## 個性とは何だろう？

学校HPは



こちらから!→

校長 渡辺 秀和

先日、脳科学者の茂木健一郎氏の講演を聞く機会がありました。テーマは、「生徒の個性を発見し、伸ばす方法」でした。そもそも、個性とは何でしょう。個性とは、「個人の人格を構成する要素の一つ、個人や固体の持つそれ特有の性質・特徴」(Wikipedia)などと定義されています。学習指導要領(教師用の教育全般の教科書のようなもの)において「個性を生かす」ということが重視されるようになったのは、1980年代後半から1990年代のことです。しかし、現行の学習指導要領では、「生徒一人一人の価値を尊重すること」「生徒一人一人個に応じた指導をすること」などの記載はあるもの、「個性」という言葉は使用されていません。これはつまり、「個性を生かす」「個性を認める」ことが「あたり前のこと」として、社会に認知され、定着したからであり、「個性」が重視されるべきものであることには、変わりはありません。

講演の中で特に印象的だった点を私なりの解説を交えながら紹介します。

### 1 個性とは、相手の鏡に映さないとわからない。

この世に独りぼっちあれば、個性など必要ありません。人との関わりがあるからこそ、その比較の中で個性となって現れるものです。他との違いを自他ともに認め合えることが重要だ、と改めて考えさせられました。

### 2 性格とは、遺伝：環境＝50：50である。

もちろん、遺伝子がある以上、性格も遺伝する部分があります。しかし、それと同じくらいの割合で、環境によって左右されるものです。そして、その血のつながりのある保護者が身近にいる環境であれば、必然的に遺伝と環境の要素が合わさることが多くなります。逆に考えれば、環境に配慮をすれば、遺伝的要素を薄めることができるとも言えそうな気がします。

### 3 思春期は蝶に例えるなら「さなぎ」の時期である。

幼虫から、さなぎとなり、そして、蝶になる。思春期は、その変化の時期であり、変化はどんな時だって不安なものです。だからこそ、中高生が不安定なのはある意味、仕方がないことかもしれません。具体的には、これまでの安全基地に守ってもらう立場から、安全基地となり守る側になります。それまでしっかり守ってもらってなかったり、その準備ができていなかったりすると、当然うまく成長しきれないこととなります。中学生が、さなぎの中で苦しい思いをしながらもがいている姿を想像してしまいました。

### 4 我々は、誰も理想の教育を受けてはいない。

もちろん、その時代によって、ベストと思って教育をしているはずですが、みな手探りですし、答えはその子供たちが大人になって初めてわかるものなのかもしれません。我々が受けた教育も今から考えれば、ベストのものではなかったと捉えることが自然なことでしょう。だからこそ、今の子供たちに対しても、ベストと思われる教育を施すしかない。教師として、学校として、これからも最大限努力しなければと思います。これは子育て全般にも共通する部分があるのではないのでしょうか。

以上になります。芝東中では、今後も、生徒一人一人の価値を尊重し、生徒一人一人に寄り添い、生徒と共に成長し、誰からも愛される学校を目指します。